

平成31年度
学生募集要項
【一般選抜】



公立大学法人

滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

携帯電話サイトとインターネットによる入試情報について

①携帯電話サイトによる案内

- 案内内容 大学概要、入試案内、出願状況、アクセス情報、合格情報など
- アドレス <http://daigakujc.jp/usp/>
(上記URLはPCからでも読み取れます。)



← QRコード対応機種の携帯電話は、
左の画像を読み取ると便利です。

②インターネットによる案内

- 案内内容 大学概要、学部・学科等の内容、入試案内、アクセス情報、合格情報など
- ホームページのアドレス <http://www.usp.ac.jp/>

個人情報の取り扱いについて

本学が保有する個人情報は、「滋賀県個人情報保護条例」ならびに「公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程」等により関係法令を遵守し、出願時に大学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、下記の目的以外には利用いたしません。

- ①入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務および付随する業務
- ②合格者のみ入学に伴う教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請、後援会等）、授業料等の収納事務および付随する業務

また、上記事務処理の一部を外部に委託し、個人情報を受託業者に提供した場合は、関係法令等により、個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止、その他個人情報の適切な管理に必要な措置に万全を期します。

[注意]

- ・問い合わせがあっても、本人以外には志願者の氏名・住所その他の個人情報は一切お知らせできません。
- ・駅、バス停、大学周辺で合否連絡・下宿案内等と称して個人情報を収集していることがあります。本学ではそのような行為は一切行っていないので注意してください。

目 次

大学の目標・教育の特色	1
I 本学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）	2
II 入学定員と募集人員	12
III 一般入試	
1 出願資格	13
2 選抜方法	
(1) 個別学力検査等の期日・時間割	14
(2) 試験科目、試験時間および学力検査等の配点	15
3 出願手続	23
4 試験場	25
5 受験上の注意事項	25
6 合格発表	26
7 試験結果の簡易開示	26
8 試験結果の一般開示	27
IV 入学手続、初年度納付金等	
1 入学手続	29
2 初年度納付金	30
3 その他	31
V 出願書類の記入例および記入上の注意	32

■添付書類（以下の各書類が同封してあることを確認してください。各書類とも前期日程用、後期日程用の2種類があります。）

- A票 入学志願票(原票)
- B票 入学志願票(電算処理票)
- C票 住所票
- D票 受験票
- E票 写真票
- F票 入学検定料振込確認票
- G票 受験票返送用封筒
- H票 出願書類提出用封筒
- I票 入学検定料振込用紙等

大学の目標

滋賀県立大学は、滋賀県における学術の中心として、未来を志向した高度な学芸と、悠久の歴史や豊かな自然、風土に培われた文化を深く教授研究するとともに、新しい時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成することを目的としています。

また、開かれた大学として、県民の知的欲求に応える生涯学習の機会の提供や地域環境の保全、学術文化の振興、産業の発展、人間の健康など、滋賀県の持続的発展の原動力として大きく寄与することを使命としています。

この大学設置の基本理念を踏まえ、次の基本的な目標を定めています。

- ・「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」という開学当初からのモットーをより一層発展させ、琵琶湖を抱く滋賀ならではの教育研究をさらに進めます。
- ・時代の流れを先取りし、先駆的・戦略的なものの見方ができる、進取の気性に富む人が育つ大学づくりを進めます。
- ・グローバル化の進展等による国際化の諸問題に対応する新しい時代に向けたモデルとなる大学を目指します。

教育の特色

(1) 4年一貫教育

より確かな知識と技術の修得を目指し、各学部別にその目的に従った個性的な教育を系統的に実施するため、専門科目を4年間にわたって一貫して編成する完全な4年一貫教育を実施します。これにより、それぞれの学部に入学者は、1年次から専門分野の講義を受けることができます。

(2) 目標を明確にした基礎教育の重視

全学部に通ずる全学共通基礎科目、学部の専門的な共通基礎科目、および学科の基礎科目が、すべて各学部・学科の教育目標に合わせて選ばれており、最も適切な年次に学ぶことができます。

(3) 人間を深く見つめる「人間学」

全学共通科目の中で、人間・環境・社会・文化を知る「人間学」が4年間いつでも履修できます。目まぐるしく変化する現代社会の中で、人間と環境、社会、文化を深く理解し、人間というものを深く見つめ、生き方を探るのが「人間学」です。人間探求学を1年次の必修とし、入門・概説ではなく、現実の問題に立論して、ひとつの見解に達するまでのプロセスを追求する様々な科目を選択科目としています。

(4) 変革力を身につける「地域教育」

地域と大学が人材を共育し、地域を共創する自立圏域「びわ湖ナレッジ・コモンズ」の形成をめざし、地域課題に対する教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。

地域教育では、全学共通科目の地域基礎科目、各学部・学科の地域志向専門科目、全学部生が選択可能な地域学副専攻を通して地域課題とその解決法について体系的に学び、コミュニケーション力、構想力および実践力を兼ね備えた変革力を身につけることを目指します。

(5) 少人数による対話・討論型の授業

教員と学生の日常的な触れ合いを重視するという基本方針のもとに、フィールドワークや実験・実習などにおいて、少人数による対話・討論型の授業が多くあります。

例えば、1年次の必修科目である「人間探求学」は、学科ごとに5、6名のグループに分け、大学で学ぶために必要な能力を養うことをねらいとし、教育の原点である人間と人間のふれあいの機会を提供しています。

(6) 他学部・他学科の履修

学生の多様な学習意欲に応えるために、学部・学科の多様性を生かし、他学部、他学科で修得した単位を卒業単位として認定し、より幅の広い人材の育成を目指します。

I 学生受入方針（アドミッション・ポリシー）

全学の受入方針

滋賀県立大学は、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の4学部からなり、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「環境」と「人間」をキーワードにした「人が育つ」大学として、平成7年に設立されました。琵琶湖に隣接し、緑豊かな自然環境のなかで、近江の歴史や多様な文化・産業を背景に、「地域に根ざし、地域に学ぶ」実践的教育が展開されています。

本学の学生は各学部・学科が掲げている人材養成の目標に向かって、体系的に配置された授業科目を段階的に学びながら自己形成に努めます。この教育目標を達成するために、必要な基礎学力を基盤にして、積極的に学び、自らの将来像の実現を目指そうとする意欲的な学生を求めます。そのため、本学では次の3種類の入学試験を行っています。

- (1) 一般入試・前期日程（センター試験と個別学力試験を併用した、幅広い基礎学力についての選抜試験）
- (2) 一般入試・後期日程（センター試験と学科の専門を反映させた個別試験を併用した、専門分野に関わる学力、適性、学習意欲についての選抜試験）
- (3) 特別入試（推薦入試A、B、C）（総合問題、実技試験あるいはセンター試験と面接を併用した、学力および適性や学習意欲についての選抜試験）

さらに、特別入試（帰国子女特別入試、私費外国人留学生特別入試）を実施し、多様な学生の受け入れに努めています。

環境科学部

環境生態学科

環境生態学科では、自然科学に関する専門知識と技術を基盤として、自然と人間が複雑に関わりあう環境での問題を発見し、その科学的解決法を主体的かつ積極的に提案できる人材を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ① 自然環境に対する知的好奇心や探究心を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲を有する人（関心・意欲）
- ② 自然科学に関する高度な専門知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③ 高い洞察力を身につけるために必要な基礎力をもつ人（思考力・判断力）
- ④ なお、本学科はフィールドサイエンスを主体として、教育活動を行っています。そのため、厳しい野外調査を途中で投げ出さず、最後までやりきるための努力を惜しまない人、すなわち、たくましい人間性を持ち、柔軟な思考ができる学生を求めます。

2. 入学者選抜の基本方針

環境生態学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた論理的思考力・判断力あるいは自然科学への関心・意欲と本学科への適応性について評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、個別面接の中から2つを組み合わせて課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、自然科学に関する知識と論理的思考力に加えて、環境科学を学ぶ上で必要な基礎学力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語・地歴公民・数学・理科・英語）と個別学力試験（数学・理科）を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では、自然科学に関する知識と論理的思考力に加えて、環境科学を学ぶ上で必要な基礎学力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語・地歴公民・数学・理科・英語）と個別学力試験（理科）を課します。

環境政策・計画学科

環境政策・計画学科では、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有する人（興味・関心・意欲）
- ②環境政策や環境計画を学ぶ上で必要な国語・数学・英語・理科・地歴公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

環境政策・計画学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた、興味・関心・意欲についても評価します。このため、一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、思考力・判断力を評価します。このため、大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別学力試験（英語あるいは数学）を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、思考力・判断力と興味・関心・意欲を評価します。このため、大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別学力試験（総合問題）を課します。

環境建築デザイン学科

環境建築デザイン学科では、持続可能な社会の建設のために、建築学を基礎に、建築を巡る環境や地域が抱える問題を発見、理解し、解決する能力を有する人材を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①高度な専門知識を身につけるために必要な数学、理科、英語、国語、地理歴史・公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ②環境建築デザインや地域社会の創造に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人（関心・意欲）
- ③都市、地域、景観、防災、資源、エネルギー、世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協調する力を有する人（協働性）
- ④見出された問題に対して論理的に思考し、その解決に向けて創造する基礎力を有する人（思考力・判断力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

環境建築デザイン学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた関心・意欲、協働性、思考力・判断力・表現力についても評価します。このため、一般入試（前期課程・後期課程）と特別入試（推薦入試A、C）を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、造形実技試験、個別面接の中から複合的に課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を評価します。このため大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別学力試験（数学・英語・理科）を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では確かな基礎学力（知識・理解）に加え、思考力・判断力・表現力を評価します。このため大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と造形実技試験を課します。

生物資源管理学科

生物資源管理学科では、動植物の生産や病害虫からの保護、土壌・水資源の保全と活用、生物機能を利用した物質生産や環境改善など、農林水産業に関わる生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①高度な専門的知識を身につけるために必要な理科、数学、外国語等の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ②農林水産業や地域環境に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人（関心・意欲）
- ③地域社会から世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協力して問題を解決する力を有する人（協働性）
- ④見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

生物資源管理学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力、関心・意欲、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、面接の中から2つを組み合わせで課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程・後期日程）】

一般入試では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語・数学・英語・理科・地歴公民）と個別学力試験（数学・理科）を課します。

工学部

材料科学科

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築を目指し、科学技術に裏打ちされた材料の進歩に貢献できる、研究者・技術者の養成を目的としています。そのため本学科では、学問の基礎の理解と実験や演習などの実践を重視し、無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な用途について、基礎から応用にわたる多面的な教育・研究を行い、“モノづくり”や新材料に興味を持ち、自己の能力向上に努める人材の育成を行います。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①無機から有機までの幅広い物質、新エネルギー材料や環境材料などの様々な領域に強い関心と学びに対する意欲があり、自らの明確な目標設定を継続して行える素養のある人（関心・意欲）
- ②数学、理科（物理と化学）、国語、英語、地理歴史・公民の科目に関して、材料に関する研究者・技術者となるための専門的内容と判断力の修得に必要な高等学校理系卒業レベルの学力を有する人（知識・理解）
- ③今までに得た知識・教養・経験を組み合わせ考える力（応用力）を持ち、また材料開発や新たな現象を類推する力（創造力）の素地があり、科学に対する思考を深めて適切に判断できる能力を伸ばす素養を有する人（思考力・判断力）
- ④問題解決のために、積極的に討議の場に参加でき、与えられた課題に対して論理的に相手を説得でき、リーダーシップを発揮する素養を有する人（積極性・論理的説得力・リーダーシップ力）
- ⑤他の人と協働して課題解決に向けた取り組みができ、得られた成果あるいは自分の考えについて自らの言葉で的確に表現し、相手に伝える能力を伸ばす素養を有する人（協働力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

材料科学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、調査書も参考にしながら高等学校教育や日常生活によって培われた関心・意欲・思考力・判断力・積極性・論理的説得力・協働力・リーダーシップ力・表現力についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試A、B）を実施し、それぞれ大学入試センター試験、個別学力試験、グループ討論、個別面接（口頭試問含む）のいくつかを組み合わせ入学試験を課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程・後期日程）】

一般入試では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力・積極性・論理的説得力・協働力・リーダーシップ力・表現力を重視します。このため、大学入試センター試験〔国語・数学・英語・理科（物理と化学）・地歴公民〕と個別学力試験〔数学・理科（物理と化学）〕に加え、調査書も参考にしながらグループ討論を課します。

機械システム工学科

機械システム工学科は、機械工学の基礎とシステム的なセンスを備え、高機能な機械を設計・開発でき、柔軟な発想能力の備わった技術者の養成を目指しています。そのために、機械工学の基幹となる熱力学、流体力学、材料力学、機械力学に、制御工学、情報処理基礎、メカトロニクス、生産工学などの幅広い科目を加え、さらに多くの演習や実験を取り入れたカリキュラムによって、基礎から応用にわたる多面的な教育を行います。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①機械とそのシステム、力学、ものづくり、ならびにこれらと自然環境、社会、人間との関わりに強い関心を持ち、自己の能力向上に対する意欲を持つ人（関心・意欲）
- ②基礎学力として、高等学校で履修する数学、理科（特に、物理と化学）、国語、英語、地歴公民の各科目において、高等学校理系卒業レベルの学力を備える人（知識・理解）
- ③今までに得た知識・教養・経験を組合せて適切に思考・判断でき、その結果や自分の考えを相手に伝えることができる素養を有する人（思考力・判断力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

機械システム工学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、確かな基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力・表現力、関心・意欲についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試A、B）を実施し、それぞれ大学入試センター試験と個別学力試験、大学入試センター試験と個別面接を課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程・後期日程）】

一般入試では、幅広い分野の確かな基礎学力（知識・理解）を重視します。また、これに加えて思考力・判断力も評価します。このため、大学入試センター試験〔国語・数学・英語・理科（物理、化学）・地歴公民〕、個別学力試験（数学・物理）を課します。

電子システム工学科

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野で基礎から応用まで幅広い知識と高度な技術をもつとともに、豊かな人間性とコミュニケーション力および問題解決力を身につけた、地域はもとより世界に通用する創造力豊かで自律した技術者の育成を目指しています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①国語、地理歴史・公民、数学、理科（物理と化学）、英語の科目に関して、電気・電子・情報工学分野の技術者に要求される専門知識・能力および教養を身につけるために必要となる、高等学校理系卒業レベルの基礎学力を有する人（知識・理解）

- ②電気・電子・情報工学分野の課題を設定・遂行・解決する能力を身につけるために必要となる、高等学校理系科目（数学と物理）の思考力を有する人（思考力・判断力）
- ③自律した技術者に求められる情報伝達・発信力と協働力を身につけるために必要となる、基礎的なコミュニケーション力を有する人（協働性）
- ④電気・電子・情報工学分野に夢や魅力を感じ、基礎から応用まで幅広い素養を身につけて積極的に活躍していきたい人、知的好奇心をもって常に新しいことに挑戦し、専門分野を通して積極的に社会に貢献していきたい人（関心・意欲）

2. 入学者選抜の基本方針

電子システム工学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校教育や日常生活で培われた「思考力・判断力」と「協働性、関心・意欲」のどちらかについても評価します。このため、一般入試（前期日程、後期日程）と特別入試（推薦入試A、B）を実施し、大学入試センター試験および個別学力試験と個別面接のどちらかを組み合わせた試験を課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程・後期日程）】

一般入試では、高等学校理系卒業レベルの確かな基礎学力（知識・理解）と数学および物理の深い思考力・判断力を評価します。このため、大学入試センター試験[国語・数学・英語・理科（物理、化学）・地歴公民]と個別学力試験[数学・理科（物理）・英語（前期日程のみ）]を課します。

人間文化学部

地域文化学科

地域文化学科では、日本、特に近江の歴史・文化・社会、およびアジアとの交流に強い関心を持ちながら自ら行動し、社会貢献の一環として学んだことを地域に還元し、科学的な目で地域を見つめてこれからの地域のありかたを探究する意欲と、問題解決能力を持ち、独創的な発想ができる人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①地域社会の過去と現在の諸問題を学ぶために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ②地域社会の諸問題について、学んだことをふまえて論理的に考え、判断する基礎力のある人（思考力・判断力）
- ③歴史・文化・社会に強い関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲のある人（関心・意欲）
- ④ローカルな問題からグローバルな問題まで広い関心を持ち、自らの考えを相手に伝え、多様な人々と交流できる人（表現力・協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

地域文化学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高校教育や日常生活によって培われた思考力・判断力、関心・意欲、表現力、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試（推薦入試）を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、面接を組み合わせる課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試(前期日程)では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。このため、大学入試センター試験（数学/理科から1教科と国語・外国語・地歴公民）と個別学力試験（国語・英語）を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試(後期日程)では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、思考力・判断力・表現力を評価します。このため、大学入試センター試験（国語/数学/理科から1教科と外国語・地歴公民）と個別学力試験として小論文を課します。

生活デザイン学科

生活デザイン学科では、人間に身近な生活環境の問題を発見し、その解決策を考え、社会に活躍できる人の育成を目指しています。この教育理念に沿って、人間に身近な生活環境としての住居、道具、服飾のデザインの理論と実践を学び、身近な生活環境を観察・分析して問題を発見し、その解決策を造形的・論理的に表現できる能力を身につけ、地域はもとより広く社会の発展に貢献できる人材の育成を、教育目標に掲げています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①高度な専門的知識を身につけるための基礎学力を持っている人（知識・理解）
- ②柔軟かつ論理的に問題を解決する基礎力を持っている人（思考力・判断力）
- ③身近な生活環境に対する関心と観察力を持っている人（興味・関心、観察力）
- ④表現行為に興味を持ち主体的に創意工夫のできる人（表現力）
- ⑤積極的行動力を身につけるための基礎力をもつ人（行動力）

2. 入学者選抜の基本方針

生活デザイン学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた、思考力・判断力、興味・関心、観察力、表現力、行動力についても評価します。このため一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施し、大学入試センター試験、個別学力試験、個別実技試験、個別面接を課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語・数学・外国語・理科・地歴公民）と個別学力試験〔英語・国語（現代文）〕を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般選抜試験（後期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）と観察力、表現力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語/数学/理科/地歴公民から3教科・外国語）と個別実技試験（デッサン）を課します。

生活栄養学科

生活栄養学科は、食物を介して栄養が健康に寄与するという認識を基盤として、人の健康に貢献する高度な専門職業人の育成を目的としています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①食、栄養、運動、健康の関わりに興味を持ち、自己の能力向上ならびに社会的貢献に意欲のある人（関心・意欲）
- ②自分が伝えたいことを相手に表現し、協働できる力を有する人（表現力・協働性）
- ③栄養学を学ぶために必要な基礎学力を有する人（知識・理解）
- ④今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる力のある人（思考力・判断力）

2. 入学者選抜の基本方針

生活栄養学科の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに高校教育や日常生活によって培われた、思考力・判断力、関心・意欲、表現力・協働性についても評価します。このため一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ大学入試センター試験と個別学力試験、大学入試センター試験と個別面接を課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

大学入試センター試験は5教科（国語・数学・英語・理科・地歴公民）を課し、高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎学力（知識・理解）を評価します。個別学力試験では、栄養学を学ぶうえで基盤となる化学と英語について、より深い「知識・理解」と「思考力・判断力」を評価します。

【一般入試（後期日程）】

大学入試センター試験は5教科（国語・数学・英語・理科・地歴公民）を課し、高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎学力（知識・理解）を評価します。個別学力試験では、栄養学を学ぶうえで基盤となる理科学科について、より深い「知識・理解」と「思考力・判断力」を評価します。

人間関係学科

人間関係学科では、人間関係を生涯にわたって発達・変化していくものとして柔軟に捉え、自身と共同体との関わりについて考え続けるための総合的教育を行っています。入学後には、人間関係への興味・関心を持ち、さまざまな環境における人間どうしのあり方を記述し、実践的にとらえ直すことが中心課題となります。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①さまざまな共同体で生じる問題に取り組むための基礎学力を有する人（知識・理解）
- ②自他の体験を客観的に記述し、とらえ直す力を有する人（思考力・構成力）
- ③さまざまな発達段階・環境における人と人との関わりに関心を持ち、自ら学ぶ強い意欲を有する人（関心・意欲）
- ④自分の考えや意見を表現し、相手に伝えるための基礎的な能力を有する人（読解力・表現力）

2. 入学者選抜の基本方針

人間関係学科の選抜試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、大学生活の中で人間関係のあり方を記述しとらえ直すための関心・意欲、思考力、表現力を選抜基準とします。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、個別面接の中から2つを組み合わせる課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、高等学校までの基礎学力（知識・理解）と思考力を重視します。このため、センター試験（国語・数学・外国語・理科・地歴公民）と個別学力試験〔英語・国語（現代文）〕を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では、高等学校までの基礎学力（知識・理解）と表現力、特にことばを介した構成力と読解力を重視します。このため、センター試験（国語/数学/理科/地歴公民から2教科・外国語）と個別学力試験（小論文）を課します。

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、グローバル化する現代社会において、広く活躍できる見識とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目標としています。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①英語もしくは他の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、モンゴル語など）について高い運用能力を身につけるために必要な語学力を有する人（知識・理解、技術・技能）
- ②幅広い知識や教養の基盤となる国語、地理歴史または公民、数学または理科についての基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③自国および諸外国の社会・文化・歴史等への強い関心と学習への意欲を有する人（関心・意欲）
- ④自分の考えや意見を積極的に提示し、相手の理解を得るための基礎的な能力を有している人（表現力）
- ⑤グローバル化によって発生する課題について、人々との交流を通して、自らの見解を形成しようとする姿勢を有する人（協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

国際コミュニケーション学科の入学試験では、基礎学力（知識・理解）を重視するとともに、外国語（特に英語）の運用能力（語学力）を重要な評価ポイントとします。さらに、関心・意欲、表現力、協働性についても評価します。このため、一般入試（前期日程・後期日程）と特別入試を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、総合問題、個別面接を組み合わせる課します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。このため、大学入試センター試験（数学/理科から1教科・国語・外国語・地歴公民）と個別学力試験〔英語・国語（現代文）〕を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）と思考力・判断力を重視します。このため、大学入試センター試験（国語・英語・地歴公民）と個別学力試験（小論文）を課します。

人間看護学部 人間看護学科

人間看護学部では、多面的な視野に立って人間と健康に関わる問題を解決し、地域に貢献できる看護職者を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

1. 求める学生像

- ①人間に対する関心をもち、対人関係の基礎的能力を有する人（表現力・協調性）
- ②生命、医療、看護に対して強い関心をもち、自ら学ぼうとする意欲を有する人（意欲・探求力）
- ③高度な専門的知識を身につけるために必要な確かな基礎学力を有する人（知識・理解）
- ④見出された課題解決に向けて論理的に思考できる基盤を有する人（思考力・判断力）
- ⑤地域社会から国際社会の問題まで広範な関心をもち、人と協働する力を有する人（関心・協働性）

2. 入学者選抜の基本方針

人間看護学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎学力（知識・理解）を重視します。さらに、高等学校での教育や日常生活により培われた意欲・探求力、表現力・協調性、関心・協働性、思考力・判断力についても評価します。このため、一般入試（前期日程と後期日程）と特別入試（推薦入試）を実施し、それぞれ、大学入試センター試験、個別学力試験、グループ討論、面接の中から2つを組み合わせで課します。また、現に看護職である人や看護学生を対象に第3年次編入学試験を実施します。

3. 選抜方法

【一般入試（前期日程）】

一般入試（前期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、思考力・判断力を評価します。このため、大学入試センター試験（国語・地歴公民・数学・理科・外国語）と個別学力試験（英語）を課します。

【一般入試（後期日程）】

一般入試（後期日程）では、確かな基礎学力（知識・理解）に加え、表現力・協調性を評価します。このため、大学入試センター試験（国語・地歴公民・数学・理科・外国語）に加え、個別入学試験としてグループ討論を課します。

Ⅱ 入学定員と募集人員（平成31年度入学者選抜）

学 部 名	学 科 名	入学定員	募 集 人 員						
			一 般 入 試		特 別 入 試				
			前期日程	後期日程	推 薦 入 試			帰国子女	私費外国人留学生
					A	B	C		
環 境 科 学 部		180人	82人	55人	36人	—	7人	—	—
	環 境 生 態 学 科	30人	11人	10人	6人	—	3人	若干名	若干名
	環 境 政 策・計 画 学 科	40人	16人	12人	8人	—	4人	若干名	若干名
	環 境 建 築 デ ザ イ ン 学 科	50人	25人	15人	10人	—	若干名	若干名	若干名
	生 物 資 源 管 理 学 科	60人	30人	18人	12人	—	—	若干名	若干名
工 学 部		150人	70人	50人	30人	—	—	—	—
	材 料 科 学 科	50人	20人	20人	10人	若干名	—	若干名	若干名
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	50人	25人	15人	10人	若干名	—	若干名	若干名
	電 子 シ ス テ ム 工 学 科	50人	25人	15人	10人	若干名	—	若干名	若干名
人 間 文 化 学 部		200人	100人	60人	40人	—	—	—	—
	地 域 文 化 学 科	60人	30人	18人	12人	—	若干名	若干名	若干名
	生 活 デ ザ イ ン 学 科	30人	15人	9人	6人	—	若干名	若干名	若干名
	生 活 栄 養 学 科	30人	15人	9人	6人	—	—	若干名	若干名
	人 間 関 係 学 科	30人	15人	9人	6人	—	—	若干名	若干名
	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	50人	25人	15人	10人	—	—	若干名	若干名
人 間 看 護 学 部									
	人 間 看 護 学 科	70人	40人	10人	20人	—	—	若干名	—
計		600人	292人	175人	126人	—	7人	—	—

- (注) 1 一般入試の「前期日程」および「後期日程」は、分離・分割方式の区分によります。
- 2 「推薦入試A」は、高等学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とします。
- 3 「推薦入試B」は、高等学校の職業に関する学科若しくは総合学科を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とします。ただし、工業に関する科目を20単位以上取得した者または取得見込みの者に限ります。なお「推薦入試A」と「推薦入試B」の併願はできません。
- 4 「推薦入試C」は、高等学校を平成30年度中に卒業または卒業見込みの者を対象とし、「推薦入試A」および「推薦入試B」の出願資格に付されている地域等の条件を付さないものとします。なお「推薦入試A」と「推薦入試C」の併願はできません。
- 5 特別入試の合格者数は、試験結果によって、募集人員を下回る場合があります。
- 6 環境科学部環境政策・計画学科は、推薦入試A、推薦入試Cの募集区分において、合格者が募集人員に満たない場合は、学科の推薦入試募集人員（12名）に達するまで、各区分の人員を超えて合格者を決定する場合があります。

Ⅲ 一般選抜試験（一般入試）

1 出願資格

平成31年度大学入試センター試験のうち、本学の指定する教科・科目を受験した者で、以下の各号のいずれかに該当するものです。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者および平成31年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および平成31年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および平成31年3月31日までにこれに該当する見込みの者で平成31年3月31日までに18歳に達するもの

具体的に上記（3）に該当するものは次のとおりです。

- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ③ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- ⑥ その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

〈個別の入学資格審査について〉

上記⑥により本学への出願を希望する者は、個別の入学資格審査の手続きにより認定を行い、認定者には「滋賀県立大学入学資格認定書」を交付します。

なお、他の大学の個別の入学資格審査を受け、平成31年度大学入試センター試験に出願した者のうち、本学の指定する教科・科目を受験した者で、新たに本学の受験を希望する者については、別に本学の個別の入学資格審査（申請期日は平成31年1月16日（水）（午後5時必着）まで）が必要です。

審査手続きについて、詳しくは本学入学試験実施本部まで問い合わせてください。

〈問い合わせ先〉

滋賀県立大学 入学試験実施本部 電話0749-28-8226

2 選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験および個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。

なお、大学入試センター試験で指定した教科・科目（英語はリスニングテストを含む。）を受験しなかった場合は、出願しても失格となり合格者となることができません。

(1) 個別学力検査等の期日・試験時間割

前期日程選抜期日		平成31年 2 月25日(月)									
学 部 等	試 験 時 間 お よ び 教 科										
	9:30 9:50	10:00	11:30	12:30	12:50	14:50	15:20	15:40	17:40		
環境科学部 環境生態学科 生物資源管理学科				試験 説明	理科(120)			試験 説明	数学(120)		
環境科学部 環境政策・計画学科	試験 説明	* 英語(90)					試験 説明	* 数学(120)			
環境科学部 環境建築デザイン学科	試験 説明	英語(90)		試験 説明	理科(120)		試験 説明	数学(120)			
工学部 材料科学科	試験 説明	面接		試験 説明	理科(120)		試験 説明	数学(120)			
工学部 機械システム工学科				試験 説明	理科(120)		試験 説明	数学(120)			
工学部 電子システム工学科	試験 説明	英語(90)		試験 説明	理科(120)		試験 説明	数学(120)			
人間文化学部 地域文化学科	試験 説明	英語(90)		試験 説明	国語(90)						
人間文化学部 生活デザイン学科 人間関係学科 国際コミュニケーション学科	試験 説明	英語(90)		試験 説明	国語 (60)						
人間文化学部 生活栄養学科	試験 説明	英語(90)		試験 説明	理科(120)						
人間看護学部 人間看護学科	試験 説明	英語(90)									

*環境科学部環境政策・計画学科において「英語と数学」の2教科を選択した者は、必ず2教科とも解答すること。

後期日程選抜期日		平成31年 3 月12日(火)										
学 部 等	試 験 時 間 お よ び 教 科											
	9:30	10:00	11:30	12:00	13:00	13:10	13:30	14:00	15:30	16:00	16:20	17:00
環境科学部 環境生態学科	試験 説明	理科(120)										
環境科学部 環境政策・計画学科	試験 説明	総合問題 (90)										
環境科学部 環境建築デザイン学科	試験 説明	造形実技 (120)										
環境科学部 生物資源管理学科	試験 説明	理科(120)				試験 説明	数学(120)					
工学部 材料科学科	試験 説明	理科(120)				試験 説明	数学(120)			試験 説明	面接	
工学部 機械システム工学科 電子システム工学科	試験 説明	理科(120)				試験 説明	数学(120)					
人間文化学部 地域文化学科 人間関係学科 国際コミュニケーション学科							試験 説明	小論文 (120)				
人間文化学部 生活デザイン学科							試験 説明	デッサン(180)				
人間文化学部 生活栄養学科		試験 説明	理科(120)									
人間看護学部 人間看護学科				試験 説明	面 接							

(注)「試験説明」では注意事項を説明します。試験説明開始時刻までに、試験室に入室してください。

(2) 試験科目、試験時間および学力検査等の配点

学部・学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
			教科	科目名等	教科	科目名等	時間分	試験の区分	国語	歴史・公民	数学	理科	外国語	総合問題	実技	配点合計
環境科学部 環境生態学科	前期 2月25日	国	「国」	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3)	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ」 (注4)	120	センター試験	100	100	100	100	200			600
		地理・公民	「数Ⅰ」,「数Ⅱ・数Ⅲ」,「数Ⅳ」,「数Ⅴ」,「数Ⅵ」,「数Ⅶ」,「数Ⅷ」,「数Ⅸ」,「数Ⅹ」,「数Ⅺ」,「数Ⅻ」,「数Ⅼ」,「数Ⅽ」,「数Ⅾ」,「数Ⅿ」,「数ⅰ」,「数ⅱ」,「数ⅲ」,「数ⅴ」,「数ⅵ」,「数ⅶ」,「数ⅷ」,「数ⅸ」,「数ⅹ」,「数ⅺ」,「数ⅻ」,「数ⅼ」,「数ⅽ」,「数ⅾ」,「数ⅿ」,「数													

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
		教科	科目名等	教科	科目名等	時間 分	試験の 区分	国語	歴史 公民	数学	理科	外国語	面接	配点 合計
工学部 材料科学科	前期 2月25日	国	「国」	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ」 (注4)	120	センター 試験	100	100	200	200	250		850
		地理 公民	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3)	理	「物基・物」,「化基・化」 から1 面接(グループ) (面接は、当日の面接試験前に発表する テーマについて、グループ討論の 形式で行います。なお、テーマはアド ミッション・ポリシーに即した内容 とします。)	120	個別学力 検査			200	300		段階評価 (注7)	500
	後期 3月12日	数	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅲ・数Ⅳ」,「簿」,「情報」 から1 (注2)	その他			計	100	100	400	500	250		1,350
		理 外	「物」と「化」 「英」 (注1)											
工学部 機械システム 工学科	前期 2月25日	国	「国」	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ」 (注4)	120	センター 試験	100	100	200	200	200		800
		地理 公民	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3)	理	「物基・物」 面接(グループ) (面接は、当日の面接試験前に発表する テーマについて、グループ討論の 形式で行います。なお、テーマはアド ミッション・ポリシーに即した内容 とします。)	120	個別学力 検査			200	200			400
	後期 3月12日	数	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅲ・数Ⅳ」,「簿」,「情報」 から1 (注2)	その他			計	100	100	400	400	200		1,200
		理 外	「物」と「化」 「英」 (注1)											
		国	「国」	数	「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ」 (注4)	120	センター 試験	100	100	200	200	200		800
		地理 公民	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3)	理	「物基・物」	120	個別学力 検査			200	200			500
		数	「数Ⅰ・数Ⅱ」と 「数Ⅲ・数Ⅳ」,「簿」,「情報」 から1 (注2)	その他			計	100	100	400	500	200		1,300
		理 外	「物」と「化」 「英」 (注1)											

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
		教科	科 目 名 等	教科	科 目 名 等	時 間 分	試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	総合 問題	実技	小論文	配点 合計
工学部 電子システム 工学科	前期 2月25日	国	「国」 「世A」、「世B」、「日A」、「日B」、「地理A」、「地理B」 「現社」、「倫」、「政経」、「倫・政経」 から1（注3） 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」、「簿」、「情報」 から1（注2） 「物」と「化」 「英」（注1） 〔5教科7科目〕	数	「数Ⅰ・数Ⅲ・数A・数B」（注4） 「物基・物」	120 120	センター 試験	100 100	100 100	200 200	200 200	200				800
		理		理			個別学力 検査			200	200	100				500
		外		外			計	100	100	400	400	300				1,300
	後期 3月12日	国	「国」 「世A」、「世B」、「日A」、「日B」、「地理A」、「地理B」 「現社」、「倫」、「政経」、「倫・政経」 から1（注3） 「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」、「簿」、「情報」 から1（注2） 「物」と「化」 「英」（注1） 〔5教科7科目〕	数	「数Ⅰ・数Ⅲ・数A・数B」（注4） 「物基・物」	120 120	センター 試験	100 100	100 100	200 200	200 200	250				850
		理		理			個別学力 検査			200	200					400
		外		外			計	100	100	400	400	250				1,250
人間文化学部 地域文化学科	前期 2月25日	国	「国」 「世B」、「日B」、「地理B」 「現社」、「倫」、「政経」、「倫・政経」 「数Ⅰ・数A」、「数Ⅱ」、 「数Ⅱ・数B」、「簿」、「情報」 から1（注2）から 「物基」、「化基」、「生基」、「地基」 から2 または「物」、「化」、「生」、「地学」 から1（注3） 「英」、「独」、「仏」、「中」、「韓」 から1（注1） 〔4（5）教科5（6）科目〕	国	「国語総合・現代文B・古典B」 「英語」（注5）	90 90	センター 試験	100 100	200 200	*100 *100	*100 *100	100				500
		理		理			個別学力 検査		200			200				400
		外		外			計	300	200	*100	*100	300				900
	後期 3月12日	国	「国」 「数Ⅰ・数A」、「数Ⅱ」、 「数Ⅱ・数B」、「簿」、「情報」 から1（注2） 「物基」、「化基」、「生基」、「地基」から2 または「物」、「化」、「生」、「地学」から1 「世B」、「日B」、「地理B」 「現社」、「倫」、「政経」、「倫・政経」 「英」、「独」、「仏」、「中」、「韓」 から1（注1） 〔3（4）教科4（5）科目〕	その他	小論文	120	センター 試験	*100	200	*100	*100	100				400
		理		理			個別学力 検査								200	200
		外		外			計	*100	200	*100	*100	100				200

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
		教科	科 目 名 等	教科	科 目 名 等	時間 (分)	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	総合 問題	実技	小論文	配点 合計
人間文化学部 生活デザイン 学科	前 期 2月25日	国	「国」	国	「国語総合・現代文B」 (注6)	60	センター 試験	100	100	100	100	100				500
		地歴 公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3) 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) (注3) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 (注3) 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」 から1 (注1) 〔5教科5 (6)科目〕	外	「英語」 (注5)	90	個別学力 検査	200						400		
	後 期 3月12日	国	「国」	そ の 他	デッサン (形の表現力,観察力,創作力,理解力を, 鉛筆描写によって総合的にみる。)	180	センター 試験	*100	*100	*100	*100	100				400
		地歴 公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」 から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」 から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」 から1 (注1) 〔4教科4 (5)科目〕				個別学力 検査						300			300
人間文化学部 生活栄養学科	前 期 2月25日	国	「国」	理 外	「化基・化」 「英語」 (注5)	120 90	センター 試験	100	100	100	100	100				500
		地歴 公民 数 理 外	「世B」,「日B」,「地理B」,「倫・政経」 から1 (注3) 「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」から1 (注2) (注3) 「物」,「化」,「生」 から1 (注3) 「英」 (注1) 〔5教科5科目〕					200	200					400		
	後 期 3月12日	国	「国」	理	「物基・物」,「化基・化」, 「生基・生」 から1	120	センター 試験	50	50	100	100	200				500
		地歴 公民 数 理 外	「世B」,「日B」,「地理B」,「倫・政経」 から1 (注3) 「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」から1 (注2) (注3) 「物」,「化」,「生」 から1 (注3) 「英」 (注1) 〔5教科5科目〕				個別学力 検査				200					200
							計	50	50	100	100	300				700

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
		教科	科目名等	教科	科目名等	時間 分	試験の 区分	国語	歴史 公民	数学	理科	外国語	総合 問題	実技	小論文	配点 合計
人間文化学部 人間関係学科	前期 2月25日	国	「国」	国	「国語総合・現代文B」 (注6)	60	センター試験	100	100	100	100	100				500
		地歴公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3) 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) (注3) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 (注3) 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」 から1 (注1) 〔5教科5(6)科目〕	外	「英語」 (注5)	90	個別学力 検査	200			200			400		
	後期 3月12日	国	「国」	その他	小論文	120	センター試験	*100	*100	*100	*100	100				300
		地歴公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」 から1 (注1) 〔3教科3(4)科目〕				個別学力 検査						200	200		
人間文化学部 国際コミュニケーション学科	前期 2月25日	国	「国」	国	「国語総合・現代文B」 (注6)	60	センター試験	100	100	*100	*100	250				550
		地歴公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3) 「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」 から1 (注2) から 「物基」,「化基」,「生基」,「地基」から2 または「物」,「化」,「生」,「地学」から1 「英」,「独」,「仏」,「中」,「韓」 から1 (注1) 〔4教科4(5)科目〕	外	「英語」 (注5)	90	個別学力 検査	200			200			400		
	後期 3月12日	国	「国」	その他	小論文	120	センター試験	300	100	*100	*100	450				950
		地歴公民 数 理 外	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」 から1 (注3) 「英」 (注1) 〔3教科3科目〕				個別学力 検査							200	200	
							計	100	100			250				650

学部・学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
		教科	科 目 名 等	教科	科 目 名 等	時間(分)	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	総合問題	実技	面接	配点合計
人間看護学部 人間看護学科	前期 2月25日	国	「国」	外	「英語」(注5)	90	センター試験	100	100	100	100	100				500
		地歴公民	「世A」,「世B」,「日A」,「日B」,「地理A」,「地理B」 「現社」,「倫」,「政経」,「倫・政経」から1(注3)				個別学力検査					100				100
		数	「数Ⅰ」,「数Ⅰ・数A」,「数Ⅱ」, 「数Ⅱ・数B」,「簿」,「情報」から1(注2)(注3)				計	100	100	100	100	200				600
	後期 3月12日	理	「物基」,「化基」,「生基」から2 または「物」,「化」,「生」から1(注3)				センター試験	100	100	100	100	200				600
		外	「英」(注1) [5教科5(6)科目]	その他	面接(グループ)	30	個別学力検査							50	50	50
							計	100	100	100	100	200			50	650

*特記事項

大学入試センター試験の利用教科・科目名の表記について

- 1 利用教科名は次のように略しています。
国語→国、地理歴史・公民→地理歴史、数学→数、理科→理、外国語→外
- 2 利用科目名は次のように略しています。
「国語」→「国」
「世界史A」→「世A」、「世界史B」→「世B」、「日本史A」→「日A」、「日本史B」→「日B」、「地理A」→「地理A」、「地理B」→「地理B」、「現代社会」→「現社」、「倫理」→「倫」、
「政治・経済」→「政経」、「倫理、政治・経済」→「倫・政経」
「数学Ⅰ」→「数Ⅰ」、「数学Ⅱ」→「数Ⅱ」、「数学Ⅰ・数Ⅱ」→「数Ⅰ・数Ⅱ」、「簿記・会計」→「簿」、「情報関係基礎」→「情報」
「物理基礎」→「物基」、「化学基礎」→「化基」、「生物基礎」→「生基」、「物理」→「物」、「化学」→「化」、「生物」→「生」、「地学」→「地学」
「英語」→「英」、「ドイツ語」→「独」、「フランス語」→「仏」、「中国語」→「中」、「韓国語」→「韓」
- 3 次の例のように利用科目名、利用方法を示しています。
【例】「物理」、「化学」、「生物」から1科目を選択 → 「物」、「化」、「生」 から1

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等欄について

- 1 配点に*印を付してある教科は選択教科を表します。
- 2 大学入試センター試験の外国語の「英語」は「筆記(200点満点)」と「リスニング(50点満点)」の合計(250点満点)を学科の傾斜配点に換算して利用します。

入試過去問活用宣言について

本学では、「入試過去問題活用宣言」に参加している大学（提供大学）の入試過去問題を使用して出題する場合があります。また、入試過去問題を使用する際には、そのまま使用することも、一部改変することもあります。

「入試過去問題活用宣言」についての詳細および参加大学の一覧については、ホームページアドレス：<http://www.nyushikakomon.jp> にて公表しています。

*注意事項

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

(注1) 外国語の「英語」はリスニングを含みます。（大学入試センターからリスニングを免除された者を除く）

(注2) 「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校または中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）の者に限ります。

(注3) 指定された教科（又は科目）の範囲内で、必要とする教科（又は科目）数を超えて受験している場合、得点の高い教科（又は科目）の得点を採用します。ただし、「地理歴史」、「公民」及び「理科②」において受験科目を1科目と指定しているところを2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

【個別学力検査等】欄

(注4) 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲から出題します。数学Bは、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

(注5) 外国語「英語」はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱの5科目を出題範囲とします。

(注6) 人間文化学部生活デザイン学科、人間関係学科および国際コミュニケーション学科における「国語総合」の出題範囲には古典(古文、漢文)を含みません。

(注7) 工学部材料科学科における「面接」は点数化せず段階評価を行い、評価が著しく低い場合には、大学入試センター試験及び個別学力検査（筆記）の成績にかかわらず不合格とすることがあります。

(注8) 環境科学部環境政策・計画学科は、出願時に英語または数学のいずれか1教科を選択して解答することとしますが、2教科とも選択・解答することができ、その場合は得点の高い教科を採用します。但し2教科選択者がいずれか1教科でも欠席した場合、その者は入学者選抜の対象から除かれます。

3 出願手続

(1) 出願期間

	出 願 期 間
前期日程 後期日程	平成31年1月28日(月)～2月6日(水) (必着)

(2) 出願方法

出願にあたっては、所定の出願書類提出用封筒〔H票〕を用い、書留速達扱いの郵送に限ります。なお、出願受付は最終日必着のため、郵送期間を十分考慮の上、発送してください。

(2月7日(木))以降に到着したものは、2月4日(月)までの消印がある書留速達郵便に限り受け付けます。)

また、2月6日(水)午後1時から午後5時までに限り、滋賀県立大学に持参の出願も受け付けします。

受付場所：滋賀県立大学管理棟（A0棟）2階 事務局教務課

(3) 出願先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500 (☎0749-28-8226)

滋賀県立大学 入学試験実施本部（事務局教務課入試室）

(4) 出願書類

出願に必要な書類		作 成 方 法
A票	入学志願票(原票)	前期日程用入学志願票(原票)には大学入試センターから交付された平成31大学入試センター試験成績請求票のうち「前期日程用」を、後期日程用入学志願票(原票)には同じく成績請求票のうち「後期日程用」を所定欄に貼付してください。 その他、32～34ページの記入例および記入上の注意を参照の上、必要事項を漏れなく記入してください。
B票	入学志願票 (電算処理票)	
C票	住 所 票	35、36ページの記入例および記入上の注意を参照の上、必要事項を漏れなく記入してください。 受験票、写真票には、縦4cm×横3cmの写真（正面上半身無帽、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの）を写真貼付欄にはがれないようにのり付けしてください。 これらの書類も他の書類と同様に、出願の際に同封してください。
D票	受 験 票	
E票	写 真 票	
F票	入学検定料 振込確認票	37ページの記入例を参照の上、所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付してください。
調 査 書		文部科学省の所定の様式により高等学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 ただし、関係法令により書類の保存期間を超えたため、あるいは廃校・被災その他の事情により出身学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書および成績証明書または成績通信簿、

調 査 書		その他調査書に代わる書類を添えて提出してください。 なお、高等専門学校第3学年修了者および文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者の調査書については、文部科学省所定の様式に準じて作成したものを提出してください。 また、外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格（フランス共和国）取得者、GCE Aレベル資格取得者、文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者および高等学校卒業程度認定試験（旧大検含む。）合格者については、当該試験等の成績証明書をもって調査書に代えることができます。 前期日程および後期日程の両方を出願する者はそれぞれ1部（合計2部）必要です。
G票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、362円分の郵便切手を貼付してください。
H票	出願書類提出用封筒	「志望学部学科」欄、「差出人」欄に必要事項を記入し、書留速達扱いにより出願してください。
入学検定料 17,000円 ・入学検定料の納入は、銀行振込に限ります。本学所定の「入学検定料振込依頼書」（I票）により、出願受付期間の1週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM（現金自動預け払い機）は、利用できません。 ・振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票（F票）の所定欄に貼付してください。 ・「入学検定料振込依頼書」は、前期日程用、後期日程用と2種類あります。前期日程志願者は前期日程用を、後期日程志願者は後期日程用を使用してください。 ・東日本大震災、熊本地震または平成30年7月豪雨による被災者等の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、入学検定料の免除を行うことがあります。詳細につきましては、平成31年1月24日（木）午後5時までに入学試験実施本部までお問い合わせください。		

（注）A票～I票の各書類は、本冊子に添付されています。

（5）障がい等のある入学志願者との事前相談

障がい等がある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を希望する場合は、下記によりあらかじめ滋賀県立大学入学試験実施本部まで連絡し、相談してください。

- ①協議の時期 平成30年12月17日（月）まで（できるだけ早い時期に相談してください）
 ※12月18日（火）以降においても可能な限り対応しますが、受験上の配慮の内容が試験準備等に時間を要する場合がありますので、できるだけ12月17日（月）までに相談してください。
- ②協議の方法 次の連絡先に連絡の上、協議申請書（大学入試センターから「受験上の配慮事項決定通知書」の交付を受けた者は、その写しで、診断書等必要書類を添付したもの）を提出することとし、必要な場合は、本学において志願者またはその立場を代弁しうる関係者等との面談を行います。
- ③連 絡 先 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
 滋賀県立大学 入学試験実施本部（☎0749-28-8226）

(6) 出願手続上の注意事項

- ① 出願に際し、本学が指定している「大学入試センター試験利用教科・科目」(15～22ページ参照)を受験しているかを必ず確認してください。

特に、大学入試センター試験の「地理歴史」、「公民」および「理科②」について、受験科目を1科目と指定している学科を出願する場合、2科目受験した者は、第1解答科目の得点を採用しますので注意してください。

なお、大学入試センター試験で指定した教科・科目(英語はリスニングテストを含む。)を受験しなかった者は、出願しても失格となり、合格者となることができません。

- ② 前期日程、後期日程の両方に出願することは、差し支えありません。
- ③ 本学の前期日程と他の国公立大学(ただし、独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。)の前期日程との併願および本学の後期日程と他の国公立大学の後期日程との併願はできません。
- ④ 本冊子添付の各書類は、それぞれ**前期日程用、後期日程用の2種類があるので**、書類作成の際には間違わないよう注意してください。
- ⑤ 必要な書類がすべてそろっていない場合には受け付けないので、出願の際には十分確認してください。また、**郵送にかかる所要日数を十分に考慮して発送してください。**
- ⑥ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ⑦ **出願受付後には出願事項の変更は認めません。**ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、滋賀県立大学入学試験実施本部まで連絡してください。
- ⑧ **受験票は2月15日(金)～21日(木)の期間に送付します。**この期間に受験票が届かない場合は、**滋賀県立大学入学試験実施本部まで問い合わせてください。**
- ⑨ 一度正式に受付をした出願書類および受領した入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。ただし、次の(ア)～(ウ)に該当する者は、入学検定料の一部または全部を返還しますので、大学にその旨を申し出て、所定の返還手続をしてください。
- (ア) 本学の指定する大学入試センター利用教科・科目を受験していないことが判明した者
- (イ) 入学検定料を振り込んだ者で、出願期間内に**出願書類を提出しなかった者**
- (ウ) 入学検定料を誤って二重に振り込んだ者

4 試験場

前期日程および後期日程の試験は、本学キャンパスで行います。(案内図は裏表紙に記載)ただし、志願者数の状況によっては、一部変更することがあります。

5 受験上の注意事項

- ① **試験当日は、「大学入試センター試験受験票」および本学の「受験票」の両方を必ず持参してください。**
- ② 受験者は、**試験説明開始時刻までに**指定された試験室(面接の場合は受験者控室)に入室し、着席してください。
- ③ 学力検査開始後は、**30分以内の遅刻に限り**受験を認めますが、検査時間の延長は行いません。
- ④ **学力検査を1教科でも受けなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。**
- ⑤ 受験票は、学力検査時に指示に従って、試験監督員に明示できるよう机の上に置いてください。
- ⑥ 当日に受験票を忘れた者は、速やかに入学試験実施本部で**仮受験票の交付**を受けてください。また、受験票は、入学手続き、成績開示請求の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。

- ⑦ 学力検査（実技検査を含む。）時間中に机の上に置けるものは、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋または箱から中身を取り出したもの）、目薬、鉛筆（シャープペンシルも可）、消しゴム、鉛筆削り、時計（計時機能のみのもの）に限ります。
- ⑧ 実技検査（環境建築デザイン学科の造形実技、生活デザイン学科のデッサン）は、デッサン用ボード（B 3 サイズ）に鉛筆を用いて描写する方法により行います。したがって、受験する者はデッサン用鉛筆（2 B、3 B または 4 B が適当）を持参してください。また、ねり消しゴム、消しゴムの消しかすを払う羽根ぼうきまたは、製図用ブラシの使用も認めます。
- ⑨ 試験室内での受験者間の物品の貸借は、一切認めません。
- ⑩ 近くには、洋食店とコンビニエンスストアがそれぞれ 1 軒ある他は、飲食店はありません。各自弁当を持参してください。
- ⑪ 試験場、バス停、駅、その周辺で合否連絡・下宿案内等と称して個人情報収集し、場合によっては金銭を要求していることがあります。滋賀県立大学ではそのような行為は一切行っていないので注意してください。
トラブル等が生じても滋賀県立大学とは一切関係がなく、責任を負えません。
- ⑫ 学力検査期日の前日の午後に限り、試験場の下見はできますが、建物内への立入はできません。
- ⑬ 悪天候、震災等による不測の事態により試験の実施が困難な場合は、携帯電話サイトとインターネットにより連絡します。詳しくは巻頭の「携帯電話サイトとインターネットによる入試情報について」をご覧ください。
- ⑭ その他必要が生じた場合には、受験票送付の際に併せて通知します。

6 合格発表

(1) 発表期日

前期日程：平成 31 年 3 月 8 日（金）午前 9 時

後期日程：平成 31 年 3 月 22 日（金）午前 9 時

(2) 発表方法

滋賀県立大学構内に掲示板を設け、合格者の受験番号を掲示します。また、合格者に合格通知書および所定の入学書類を送付します。

(3) 合格速報サービス

携帯電話サイトとインターネットで同時刻より合格者を速報します。詳しくは巻頭の「携帯電話サイトとインターネットによる入試情報について」をご覧ください。

(4) 追加合格

各学部・学科の募集人員に欠員が生じた場合には、追加合格を認めることがあります。この場合には、3 月 28 日（木）の早朝（6：00 頃）から該当者に対して、志願票に記載された「住所」または「緊急連絡先」の電話により照会します。直接本人から入学の意志を確認しますので、必ず連絡がとれるようにしておいてください。連絡がとれない場合は、追加合格の対象者となりえませんので、注意してください。追加合格の入学手続は、その際に指示します。

また、追加合格を行う学科については、3 月 28 日（木）に大学ホームページで発表します。

7 試験結果の簡易開示

「公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程」に基づき、受験者本人が以下の事項の個人別成績を簡易開示請求することができます。

- ・総合得点およびその順位

(1) 請求できる者

受験者本人に限る。(代理人の請求は認めません。)

(2) 請求期間

前期日程：平成31年3月11日(月)から平成31年3月15日(金)まで

後期日程：平成31年3月25日(月)から平成31年3月27日(水)まで

※受付時間は、土・日曜日、平成31年3月12日(火)を除く、平日の午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(3) 請求方法

受験者本人が**本学の受験票(原本)**を持参の上、本学教務課にて請求してください。

※簡易開示請求では、郵送での請求は認めません。

(4) 開示方法

開示内容を本学教務課にて閲覧することができます。

8 試験結果の一般開示

自己の試験結果の開示を希望する者は、以下の事項の個人別成績を一般開示請求することができます。

- ① 大学入試センター試験の科目別得点(素点)、本学利用得点および本学利用得点合計
- ② 個別学力検査の科目別得点(面接を含む)およびその合計(点数化していない面接については評価記号)
- ③ 総合得点およびその順位

(1) 請求できる者

受験者本人に限る。(代理人の請求は認めません。)

(2) 請求期間

平成31年4月1日(月)から平成31年5月31日(金)まで

※郵送の場合は、5月31日の消印があるものまで受け付けます。

※直接来学の場合の受付時間は、土曜・日曜・祝日を除く平日の午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。

(3) 請求方法

次の書類を受験生本人が本学教務課に郵送または直接持参してください。

- ① 「平成31年度入学者一般入試成績開示請求書」(本募集要項28ページを使用し(複写可)、必ず受験生本人が記入してください。)
- ② 本学の**受験票の原本**(写しは不可。原本は成績個票送付時に返却します。)
- ③ 返信用封筒(長形3号; 受験生本人の住所・氏名・郵便番号を明記の上、512円分の**郵便切手**を貼付したもの)

(4) 開示方法

開示内容を転記した成績個票を、**平成31年4月20日以降に親展・書留郵便により順次送付します。**(直接来学して請求した場合でも、成績個票は後日郵送します。)

＜請求および問い合わせ先＞

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務課入試室 (電話0749-28-8217・8243)

受 理 日	年 月 日
発 送 日	年 月 日

平成31年度入学者一般選抜試験成績開示請求書

年 月 日

滋賀県立大学長 宛

(請 求 者)

住 所	(〒 —)		
フリガナ			
氏 名			
生 年 月 日	昭和 平成 年 月 日	電話番号	— —

下記入学試験に係る私の個人別成績の開示を請求します。

記

平成31年度滋賀県立大学入学者一般選抜		試験日程	前期 ・ 後期
本学の受験番号	前期日程		
	後期日程		
大学入試センター試験試験場コード・受験番号		—	
受 験 し た 学 部 ・ 学 科 名	前期日程	学部	学科
	後期日程	学部	学科

※「試験日程」欄は、前期日程を請求する場合は「前期」を、後期日程を請求する場合は「後期」を、両方請求する場合にはどちらにも○で囲んでください。

なお、両方請求するときは本学受験票（原本）も両方とも必要となります。

※「受理日」、「発送日」欄は、記入不要です。

IV 入学手続、初年度納付金等

1 入学手続

(1) 入学手続期間

前期日程：平成31年3月9日（土）から平成31年3月15日（金）まで（必着）

後期日程：平成31年3月23日（土）から平成31年3月27日（水）まで（必着）

(2) 入学手続方法

- ① 入学手続に必要な書類は、合格発表後に直接本人あてに郵送します。（手続の際、「本学の受験票」および「大学入試センター試験受験票」の提出、入学料の納付（30ページの2（1）を参照）が必要です。）
- ② 郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、入学手続期間最終日必着とします。また、直接持参する場合の受付時間は、土・日曜日および3月12日（火）を除く平日の午前9時から午前11時30分までおよび午後0時30分から午後5時までとします。

(3) 入学手続に必要な提出書類等

- ① 誓約書（本学所定の様式）
- ② 保証書（本学所定の様式）
- ③ 卒業証明書または修了証明書（出願時に卒業見込みまたは修了見込みで受験した者の場合のみ提出。）
- ④ 入学料振込確認票（指定の振込用紙で金融機関振込後の振込金受領証明書を貼付）
- ⑤ 写真1枚（最近3か月以内に撮影したもので、カラー、正面上半身無帽、背景なし、縦4cm×横3cmのもの）
- ⑥ 住民票の写し（滋賀県内の者としての入学料の適用を受ける場合のみ提出。入学料については、30ページの2（1）を参照）
- ⑦ 受験票（本学および大学入試センター試験の受験票）

(4) 入学手続先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

滋賀県立大学 入学試験実施本部（☎0749-28-8226）

(5) 入学手続上の注意事項

- ① 必要な書類がすべてそろっていない場合には受け付けないので、書類の提出の際には十分確認してください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは受け付けないので、郵送の場合には所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ② 入学手続期間内に入学手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものと取り扱います。
- ③ 一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

(6) その他の留意事項

- ① 前期日程試験に合格し、入学手続を行った者は、公立大学中期日程試験を受験していても合格者となることはできません。また、他の国公立大学（ただし、独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の後期日程試験を受験しても合格者となることはできません。
- ② 本学の入学手続を完了した者は、他の国公立大学・学部への入学手続を行うことはできません。また、他の国公立大学・学部の入学手続を完了した者は、本学への入学手続を行うことはできません。
- ③ 他の国公立大学の推薦・AO入学試験の合格者は、本学に出願しても合格者となることはできません。
ただし、入学辞退について、当該大学の許可を得た場合はこの限りではありません。
- ④ 国公立大学の分離分割方式による合格および追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名および大学入試センターの受験番号に限って、合否および入学手続き等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センターおよび併願先の国公立大学に送達されます。

2 初年度納付金

(1) 入学料

入学手続の際には、下記の金額の入学料を指定金融機関に振り込みください。

- ① 滋賀県内の者 **282,000円**
- ② 上記以外の者 **423,000円**

(注) 滋賀県内の者とは、次の各号のいずれかに該当する者をいいます。

- ア 入学の日の1年前（平成30年4月1日）から引き続き滋賀県内に住所を有する者
- イ 入学の日の1年前（平成30年4月1日）から引き続き滋賀県内に配偶者または1親等の親族（生計を一にする者に限る）が住所を有する者

(2) 授業料

- ① 金 額 年額 **535,800円**（平成30年度の額であり、改定されることがあります。）
なお、在学中に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。
- ② 納入方法 平成31年度前期授業料は、入学後に、お渡しする所定の振込用紙により指定金融機関へ振り込みください。平成31年度後期以降の授業料については、口座引き落としにより、納入していただきます。口座引き落としの手続きは、改めてお知らせします。

(3) 後援会費

入学手続の際に、後援会費（4年間分 50,000円）を所定の振込用紙により指定金融機関へ振り込みください。

(4) 同窓会費

入学手続の際に、同窓会費（終身会費 10,000円）を所定の振込用紙により指定金融機関へ振り込みください。

3 その他

(1) 奨学金

① 日本学生支援機構が貸与する奨学金

奨学生の決定は、学内で出願者の資格審査後、該当者を推薦し日本学生支援機構が決定します。

区 分	貸 与 月 額	
第一種奨学金 (無利子)	自 宅 通 学 者	30,000円又は45,000円から選択
	自 宅 外 通 学 者	30,000円又は51,000円から選択
第二種奨学金 (有利子)	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円から選択	

※他に入学時特別増額貸与奨学金(10万円、20万円、30万円、40万円、50万円)があります。

② 上記の他にも、地方公共団体等の奨学金制度があります。

(2) 授業料の減免

家庭の経済事情または不測の災害などのため、授業料の納付が著しく困難である学生には、授業料の減免制度があります。

(3) 学生教育研究災害傷害保険

通学途中を含む正課の授業や課外活動中の事故等による傷害補償を行うものです。全員加入で、保険料は、後援会から一括して支払われます。

(4) 留学費用

一定の条件のもとに海外への留学者を経済的に支援する制度があります。

(5) 国の教育ローン(日本政策金融公庫)

入学金、授業料、教科書代、アパートの敷金・家賃など、入学時や在学中に必要な資金を融資する公的な制度として、「国の教育ローン」があります。融資金額は、学生・生徒1人につき350万円以内、返済期間は15年以内です。

詳しくは、「国の教育ローン」コールセンター(0570-008656(ナビダイヤル))まで問い合せてください。

V 出願書類の記入例および記入上の注意

A票は、黒のボールペンで記入してください。
誤って記入した場合は、二重線を引いて余白部分に記入しなおしてください。

何も記入しないでください。

(原票) A票

平成31年度滋賀県立大学入学志願票〔前期日程〕

志望する学部・学科名を記入してください。

受験番号	※
------	---

志望学部	環境科	学部	環境政策・計画	学科
------	-----	----	---------	----

環境政策・計画学科を志望する者は、1つだけ
○で囲んでください。

平成31センター 試験成績請求票貼付欄	
前	前期日程用

大学入試センターから送付されたセンター試験成績請求票を切り取って、しっかりと貼ってください。

試験選択欄（環境科学部環境政策・計画学科の志願者のみ記入）

英 語	数 学	英語と数学
-----	-----	-------

環境科学部環境政策・計画学科を志願する者は、「英語」「数学」「英語と数学」から1つ選択し○で囲んでください。

「英語と数学」を選択し解答した場合は、得点の高い教科を採用します。但し、「英語と数学」選択者が、いずれか1教科でも欠席した場合、その者は入学者選抜の対象から除かれます。

合格通知書の送付や緊急時の連絡ができる住所、電話番号を記入してください。

上記の住所以外に緊急の連絡先がある場合に記入してください。（上の住所と同じ場合には何も記入しないでください。）

フリガナ	サンダイタロウ		性別	男	生年月日	昭和 平成12年4月2日 (西暦2000年)
志願者氏名	県大太郎		性別	男	生年月日	昭和 平成12年4月2日 (西暦2000年)
住所	〒522-0057 滋賀県彦根市八坂町2500大学アパート102号室		電話番号	(0749) 12-3456		
緊急連絡先	〒 - 都道府県		電話番号	(090) 1234-5678 ※追加合格時などに使用しますので、必ず連絡がとれる番号を記入してください。		

出願資格	① 高校 (中等教育学校)	2 高専3年次修了	3 高校卒業程度認定試験	4 その他 ()	
出身学校	所在地	学 校 名		学 科	課 程
	滋賀県	国立琵琶湖高専学校		普通科	全日制 定時制 通信制
卒業・修了（見込）年月		昭和 平成31年3月			

H B の鉛筆で記入してください。

(電算処理票)

B 票

平成31年度 滋賀県立大学入学志願票〔前期日程〕

ID 020

右の学部学科コード表に従って正確に記入してください。

※必ずHBの鉛筆で記入すること。

12	環境科学部	工 学 部	人間文化学部	人間看護学部
11	環境生態学科	21 材料科学科	30 地域文化学科	51 人間看護学科
12	環境政策・計画学科	22 機械システム工学科	44 生活デザイン学科	
13	環境建築デザイン学科	23 電子システム工学科	45 生活栄養学科	
14	生物資源管理学科		46 人間関係学科	
			47 国際コミュニケーション学科	

※記入不要

1 9

何も記入しないでください。

濁点、半濁点は一文字分を使用し、
姓・名の間は1文字空け、左から詰
めて記入してください。

入学志願票(A票)
住所欄の電話番号
を記入してくださ
い。

学校コードは、下
記(5)により正確
に記入してくださ
い。

生年月日は和暦で記入し
てください。生年月日の
数字が1ケタの場合「04」
のように前に「0」を記
入してください。

志願票(A票)に貼付した
大学入試センター試験成
績請求票の番号と一致し
ていること。

受験した大学入試センター試験の教科・
科目に「1」を記入してください。

※記入不要

1 1

国語	地理歴史、公民(第1解答科目)										地理歴史、公民(第2解答科目)										外 国 語				
国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	英語(英検2級相当)	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

理 科 ①				数学①		数 学 ②				理科 ② (第1解答科目)				理科 ② (第2解答科目)			
物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	数学Ⅰ・A	数学Ⅱ・B	簿記・会計	情報関係基礎	物理	化学	生物	地学	物理	化学	生物	地学		
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

(注)：地理歴史・公民および理科②について、1科目受験者は第1解答科目欄に受験予定の科目をマークすること。
2科目受験者は、第1解答科目欄に最初の時間に解答を予定する科目を、第2解答科目欄に科目に次の時間に解答を予定する科目をマークすること。

- (1) この電算処理票は、OCR (光学文字読取り機) 用紙になっているので、ていねいに取り扱ってください。汚れ、水ぬれ、折れ曲がり等がないように注意し、冊子からの切り離しは、特に慎重に行ってください。
- (2) 電算処理票は、HBの鉛筆を使用し、次ページの「標準文字例」を参照の上、各欄を正確に記入してください。記入の際は、文字が枠からはみ出さないように注意してください。誤ってボールペンで記入した場合は、修正液などを使わず、そのまま提出してください。
- (3) 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないようにしてください。
- (4) 所定の欄以外には何も記入しないでください。
- (5) 出身学校等の学校コードについては、平成31年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内 (http://www.dnc.ac.jp/center/shiken_jouhou/h31.html) の高等学校等コード表より、該当するコード番号を正確に記入してください。

標準文字例

電算処理票に記入する際には、下記の文字例を参照の上、1文字ずつ、はっきりと記入すること。
特に線が接しているか離れているか、線の端が折れているか、出っ張りがあるか等に注意すること。

(1) 数字文字例

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2) 英字文字例

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
W	X	Y	Z	—						

(3) カナ文字例

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ
シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ
ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム
メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ
ヲ	ン	。	”							

(4) 次の文字は、誤読を起こしやすいので、特に注意すること。

- ① 数字の「0」と、英字の「D」「O」、カナの「ロ」
- ② 数字の「1」と、英字の「I」、カナの「ノ」
- ③ 数字の「4」と、カナの「チ」
- ④ 数字の「7」「9」と、カナの「ク」「フ」
- ⑤ 英字の「D」と「P」
- ⑥ 英字の「J」「T」と、カナの「ナ」「メ」
- ⑦ カナの「シ」と「ツ」
- ⑧ 英字の「Z」と、英字の「I」、数字の「2」。「Z」には必ず「—」をつける

黒のボールペンで記入してください。
誤って記入した場合は、二重線を引いて余白部分に記入しなおしてください。

C 票

住所票（合格通知等送付用）（前期日程）

合格通知等 送付先	〒 522 - 0057 (受験番号※)	
	滋賀県彦根市八坂町2500	
	大学アパート102号室	
	県 大 太 郎 様	
志望学科	環境科学部	環境政策計画 学科

合格通知等 送付先 (住所・氏名)	〒 522 - 0057 (受験番号※)	
	滋賀県彦根市八坂町2500	
	大学アパート102号室	
	県 大 太 郎 様	
志望学科	環境科学部	環境政策計画 学科

入学志願票
(A票)と同じ住所を正
確に記入し
てください。

何も記入しな
いください。

(注) この住所票はシール式になっていますので、はがれないように取り扱ってください。
※印欄は記入しないでください。

黒のボールペンで記入してください。
誤って記入した場合は、二重線を引いて余白部分に記入しなおしてください。

D 票

平成31年度滋賀県立大学入学試験受験票（前期日程）

受験番号	※	
志望 学部学科	環境科学部 環境政策計画 学科	
フリガナ	ケン ダイ タ ロウ	
氏 名	県 大 太 郎	
性 別	男 ・ 女	
生年月日	平成 12 年 4 月 2 日	
写真貼付欄 注 意 上半身、脱帽、正 面向きで最近3か 月以内に撮影した もの 縦4cm×横3cm		
注意事項 1 本受験票と大学入試センター試験受験票は、試験当日必ず携帯してください。 2 本受験票と大学入試センター試験受験票は、合格後入学手続きに必要なので紛失しないでください。 3 ※印欄は記入しないでください。		

貼付する写真は
モノクロ、カラー
のどちらでもか
まいません。
写真の裏面に氏
名、志望学部学
科を記入し、は
がれないように
しっかりと貼り
付けてください。

黒のボールペンで記入してください。
誤って記入した場合は、二重線を引いて余白部分に記入しなおしてください。

E 票

平成31年度滋賀県立大学入学試験写真票（前期日程）

受験番号	※		写真貼付欄 注 意 上半身、脱帽、正面向きで最近3か月以内に撮影したもの 縦4 cm×横3 cm (D票と同じ写真)
志望学部学科	環境科 学部 環境政策・計画 学科		
フリガナ	ケン ダイ タロウ		
氏 名	県 大 太 郎		
性 別	男 ・ 女		
生年月日	平成 12 年 4 月 2 日		

受験票(D票)に貼付した写真と同じ写真を貼付してください。写真の裏面に氏名、志望学部学科を記入し、はがれないようにしっかりと貼り付けてください。

※印欄は記入しないでください。

黒のボールペンで記入してください。
誤って記入した場合は、二重線を引いて余白部分に記入しなおしてください。

F 票

平成31年度滋賀県立大学入学検定料振込確認票（前期日程）

受験番号	※		この枠内に振込後の「入学検定料振込金受領証明書（前期日程用）」を貼り付けてください。
志望学部学科	環境科 学部 環境政策・計画 学科		

収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」をはがれないようにしっかりと貼り付けてください。

※印欄は記入しないでください。

用
程
日
期
前

用
程
日
期
前

- 卷一

振 込 依 頼 書

志願者は何も記入
しないでください。

前期日程用

振込金
(兼手数料)

前期日程用

(大学提出用)

金額	百万	千	百	十	円	日
振込先	1	7	0	0	0	円
銀行	滋賀銀行	彦根支店				
支店	三重UFJ銀行	草津支店				
振込元	シガ	ケンリツタイ	ガク			
振込人	滋賀県立大学					

県大 太郎

(備考)

氏名を記入してください。

上記の金額正に受取りました。

銀行
〈取扱店〉

收入

〈取扱店→依頼人〉

(取扱店保管)

※取扱銀行へお願い
(取扱店保管)
太線内を必ず打電して下さい。収納印または振替印は3箇所押印ください。

入学検定料(平成31年度一般入試)

金額	17,000 円
受取人	滋賀県立大学
(志願者) 住所	522-0057 滋賀県彦根市八坂町2500 大塚野分学舎102号室 宇田大太郎 ！
フリガナ	
氏名	

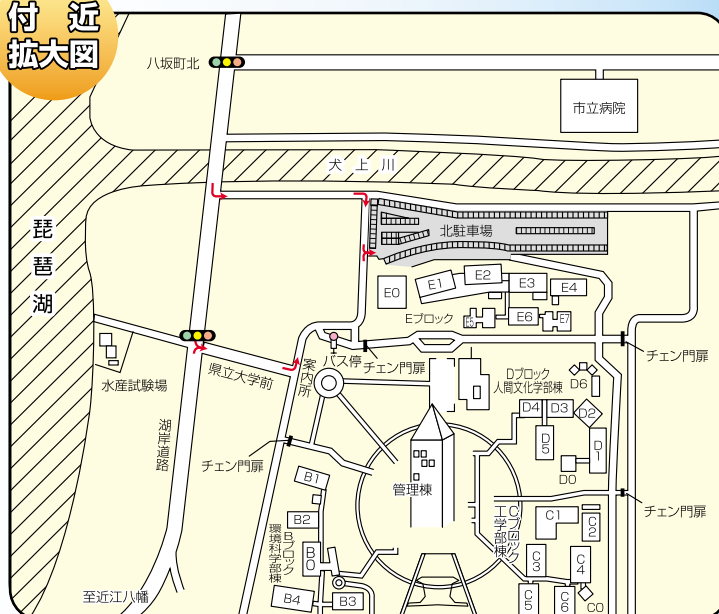
収納印または振替印

氏名、住所を
記入してください。

大学案内図



付近拡大図



JR南彦根駅から バスで15分 タクシーで 8分

JR彦根駅から バスで25分 タクシーで10分

駐車場は、北駐車場をご利用下さい。



滋賀県立大学

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

TEL.0749-28-8226 FAX.0749-28-8472

再生紙を使用しております。



地球に優しい大豆油を使用した
インキで印刷されています。

平成30年9月編集・10月発行